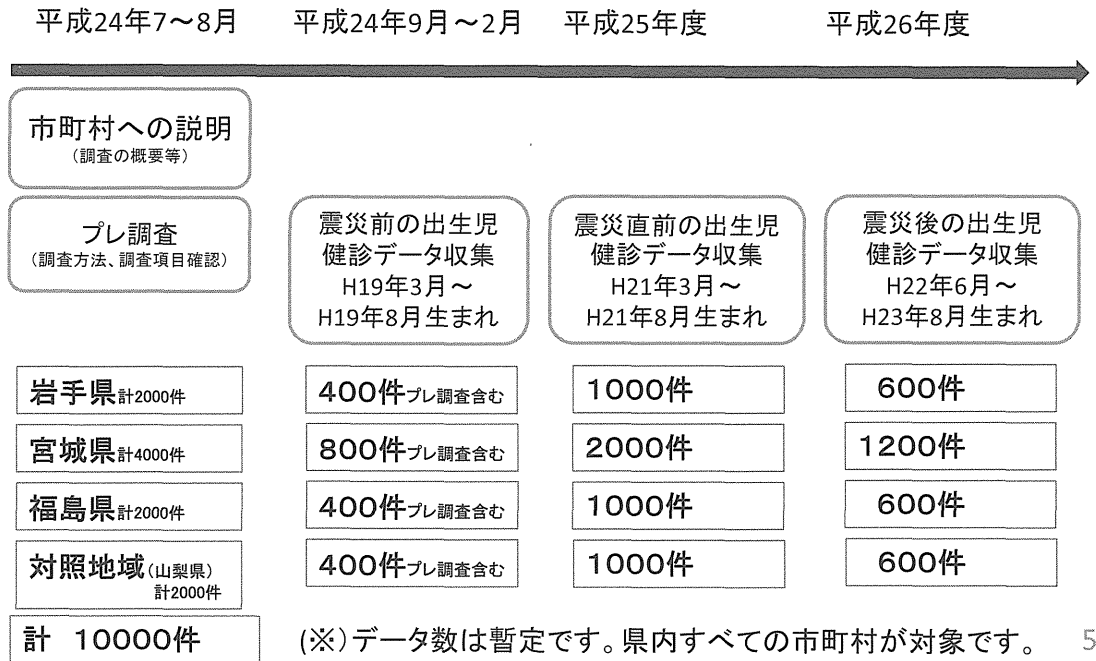


# ①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究 ～乳幼児健診の既存データの収集～

## 【スケジュールと対象】



# ①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究 ～乳幼児健診データ～

## 【調査項目(案)】(\*は必須)

### ●いずれかの時期

- \*個人ID
- \*H23.3.11前後の住所  
(被災の有無を推定。  
番地はなし)
- \*被災に関するメモ書き
- \*先天性股関節脱臼
- \*視力
- \*歯科

### ●出生時

- \*出生日
- \*在胎週数
- \*性
- \*出生時体重
- \*出生時身長
- \*単胎、多胎  
帝王切開  
生後一週間までの異常の有無
- \*母乳栄養
- \*母親の年齢  
妊娠前体重、妊娠中体重増加
- \*妊娠中の喫煙  
妊娠中の飲酒  
母親の就労  
家族構成
- \*家族の喫煙者

### ●乳児期健診(1～2回)

- \*健診日  
月齢
- \*体重
- \*身長
- \*母乳栄養  
離乳食開始、完了

### ●1歳6か月児健診

- \*健診日  
月齢
- \*体重
- \*身長
- \*母乳栄養  
離乳食開始時期、

### ●3歳(6か月)児健診

- \*健診日  
月齢
- \*体重
- \*身長

※個人ID、住所、出生日は、解析用データベース作成後  
速やかに削除

## ①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究 ～乳幼児健診データの収集方法～

### 【検討中の案】

●情報が電子化されている場合：

- 1) 必要項目を取り出し、DVD等を大学に提供いただく  
⇒必要経費があれば、お支払致します

●情報が紙媒体で保管されている場合：

- 2) 自治体で個人情報を削除してコピー後、大学に送付  
⇒紙代、トナー代、郵送代等をお支払致します
- 3) 自治体で必要事項を転記後、大学に送付  
⇒紙代、筆記具代、郵送代等をお支払致します
- 4) 自治体で必要事項を電子入力後、大学に送付  
⇒メディア、郵送代等をお支払致します
- 5) 大学から保健センター等に人を派遣し、個人情報を削除してコピー  
⇒紙代、トナー代等をお支払致します
- 6) 大学から保健センター等に人を派遣し、必要事項を転記  
⇒特に金銭のお支払予定はありません
- 7) 大学から保健センター等に人を派遣し、必要事項を電子入力  
⇒特に金銭のお支払予定はありません

1)～7)から選択

7

## ①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究

### 【倫理審査】

平成24年6月25日  
東北大学にて承認

(受付番号：2012-1-125)

様式第5号

倫理委員会  
審査結果通知書

平成24年6月25日

寄附責任者： 岡 篤夫 様

東北大学大学院医学系研究科長  
大内 崇明 印

研究課題名： 被災地の子どもの発育状況等に関する調査

研究期間： 西暦2012年6月-西暦2015年3月

申請のあった上記研究計画について、審査の結果下記のとおり判定しました。

判 定

1.  承認する。

2. 条件付きで承認する。

3. 再提出。

4. 承認しない。

5. 該当しない。

条件又は変更勧告の内容及び理由

(注)  
「承認する」「条件付きで承認する」「再提出」のいずれの方法においても、「倫理審査に関する倫理申請手続表」にて承認してください。「条件付きで承認する」の場合は持ち帰り審査を行います。

東北大学大学院医学系研究科倫理委員会審査表  
委員長 岡 篤夫 印

8

## 被災地小児データ収集の意義

- ご協力いただいた自治体には、当該自治体と協力全自治体との比較をした報告書をお返しします。ご協力いただいた自治体は、これを基礎資料として地域の子どもの課題の把握や支援を検討することができます(学校保健統計調査と同様の効果が期待されます)。
- 被災地の子どもの心身の状況を把握し、必要な医療や診療体制等を検討すること等により、被災地の子どもの保健の向上を実現することができます。
- 災害時の小児医療機関の課題を取りまとめることで、災害時の小児保健対策のより効果的な立案が可能となります。
- 岩手県、宮城県、福島県の小児保健医療関係者が共通の課題認識を持って、子どもの支援に携わることが可能となります。

9

(発育調査に関するお問い合わせ先)  
岩手医科大学 小児科  
東北大学 小児科  
福島県立医科大学 小児科

10

# 資料3A

平成24年9月20日

市町村母子保健担当者 各位

厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班  
研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究 へのご協力をお願い

初秋の候、皆様方におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日本全国に大きな悲しみと被害をもたらした東日本大震災後1年以上が経過し、運動不足やストレスなどの子どもの発育への影響が指摘されています。

そのため、当研究班では、ご協力頂ける市町村の震災前後の乳幼児健診等の情報を収集し、被災地の子どもたちの発育の変化の有無等を調べることになりました。子どもたちの発育状況等を把握し、対照地域や全国の保育所のデータと比較することで、今後の対応の提言など被災地の小児保健の向上に寄与することができると考えております。

協力頂いた市町村には、全体との比較等を行った報告書をお返しさせていただきます。調査に協力されない場合でも不利益になるようなことはございませんが、調査の趣旨をご理解頂き、今後の小児保健の向上のため、是非積極的にご協力いただきますようお願いいたします。平成24～26年度の調査を予定しておりますが、平成24年度は、別添「調査概要」および「調査票の見本」の通り震災前のデータの収集を予定しております。

調査への協力の可否等について、10月5日（金）までにFAXで回答いただけますようお願いいたします。

ご協力いただける市町村には、追って調査に関する詳細をご連絡させていただきます。

東北大学医学部小児科  
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1  
Tel 022-717-7285  
Fax 022-717-7289  
HP <http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/>

## 調査概要

### ◆平成24年度の調査対象

平成19年3月1日～平成19年8月31日生まれの子ども、  
出生時及び乳幼児健診の情報（※個人を特定するような情報は集めません）

### ◆調査方法（以下の4つから選択）

- ① 東北大学から業務委託された者が市町村保健センターへ赴き、健診票から調査項目を転記  
（※委託事業者は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会よりプライバシーマークを取得しており、個人情報の適切な取り扱いが行われております。）
- ② 自治体が契約している者が転記し、この者の雇用費用を大学が負担する
- ③ 市町村で、データ入力されたものがある場合は、研究班に送付
- ④ 市町村で、健診票の黒塗りコピーを作成し、研究班に送付

### ◆調査項目案（別添 調査票の見本を参照）

#### ◇ 出生時情報：

（1）性別、（2）在胎週数、（3）生年月日、（4）出生時身長、（5）出生時体重

#### ◇ 3歳時までの乳幼児健診（3～4ヶ月、6～10ヶ月、1歳6ヶ月、3歳（3歳6ヶ月））：

（1）身長、（2）体重、（3）頭囲（3～4ヶ月、6～10ヶ月のみ）、（4）栄養法（母乳、混合、人工乳）（3～4ヶ月、6～10ヶ月のみ）、（5）健診日

### ◆平成25～26年度の調査（計画中。変更の可能性あります）について

#### ○平成25年度：

平成21年3月1日～平成21年8月31日生まれの子ども出生時及び3歳までの乳幼児健診の情報、被災に関する情報

#### ○平成26年度：

平成22年6月1日～平成23年8月31日生まれの子ども出生時及び乳幼児健診の情報、被災に関する情報

FAX 番号：022-717-7285

FAX

送付枚数：1枚（本票含めて）

被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究 に関して、  
以下のとおり回答します。

協力の可否	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否	
市町村名			
■以下の項目は、協力可の場合のみご回答下さい。			
担当部署名称、住所及び 電話番号：	〒 電話： - -		
担当者お名前			
担当者メールアドレス			
調査対象人数の概算	約 人		
希望する調査方法 (①～④から選択し チェックをつけて下さい)	<input type="checkbox"/>	① 東北大学から業務委託された者が市町村保健センターへ赴き、調査項目を転記	
	<input type="checkbox"/>	② 自治体が契約している者が転記し、この者の雇用費用を大学が負担する	
	<input type="checkbox"/>	③ 市町村で、データ入力されたものを研究班に送付	
	<input type="checkbox"/>	④ 市町村で、健診票の黒塗りコピーを作成し、研究班に送付	
以下の項目の記録状況について、ボックスにチェックをつけてください（例：☑）。			
	データ 有り	データ 無し	電子データ化 済み
出生時の情報(生年月日、在胎週数、性別、出生時身長体重)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
乳幼児健診の情報(健診日、身長、体重、頭囲)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
栄養に関する情報(日にち、母乳、混合、人工乳)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
多胎の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家族の喫煙状況	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公費負担による予防接種の種類及び接種日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
被災による転入転出の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家族又は本人の被災の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
備考 調査が入ってほしくない日時などありましたら、教えてください。			

## 東北大学医学部小児科

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班 行

お問い合わせ TEL 022-717-7289



平成 24 年 7 月 30 日

各市町村母子保健担当者殿

岩手医科大学小児科学講座  
教授 千田 勝一

## 「東日本大震災被災地の子どもの発育状況に関する調査」へのご協力依頼

東日本大震災から 1 年数か月が経過したとはいえ、皆様にはまだまだ大変な日々をお過ごしのことと拝察いたします。

そのような状況の中、甚だ恐縮ですが、標題の調査へのご協力をお願いいたしたく、ご連絡を取らせていただきました。

この調査は厚生労働省の指定科学研究として、東日本大震災により甚大な被害を受けた東北 3 県の小児医療中核施設である岩手医科大学小児科と東北大学小児科、福島県立医科大学小児科が一致協力し、それぞれの県の乳幼児健康診査のデータについて被災地と非被災地のデータを比較することにより、被災による影響を明らかにするとともに、今後の災害時の小児保健の在り方について提言することを目的としたものです。

調査は岩手医科大学小児科の担当者が岩手県内の協力可能な市町村を訪問し、3 歳児健診を終えた既存の乳幼児健康診査票のデータを転記、コピーまたはデータ入力します。なお、個人情報除去し、対象者への新たな調査は実施しません。また、「倫理指針」において、本調査は既存資料のみを用いる観察研究のため、同意を得ることを必ずしも必要としませんが、各担当大学の倫理委員会の承認を得ております。

本調査に関する資料を添付いたします。できるだけ市町村担当者の方々にご迷惑とならないようにしますので、ご協力の程、よろしく願い申し上げます。

ご多忙のところ恐縮ですが、調査へのご協力のお返事は、同封の返信用紙に記載の上、Faxで平成 24 年 8 月 20 日までをお願い申し上げます。

### 添付資料

- ・厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課からの依頼状（今回の依頼は「記 1」についての調査研究です）
- ・岩手県保健福祉部児童家庭課からの依頼状（今回の依頼は「記 1. ①」についての調査研究です）
- ・別紙 1：今回の依頼は「①子どもの発育状況に関する研究」です）  
今回は岩手県より、スライド番号 5 にある「市町村への説明」の機会がとれないというご返事のため、本依頼状をお送りしました。
- ・別紙 2、別紙 3：本依頼状とは別の調査研究
- ・別紙 4：「子どもの発育状況に関する研究」概要
- ・返信用紙



事務連絡  
平成24年7月6日

岩手県  
宮城県  
福島県  
仙台市

母子保健担当者 殿

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課

## 東日本大震災被災地における母子保健に関する調査研究について

母子保健行政の推進につきましては、かねてより格段のご配慮を賜り、深く感謝申し上げます。

平成24年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業においては、下記のとおり、被災体験、家族・友人や生活基盤の喪失などが東日本大震災被災地の母子の心身の健康や保健システムに与える影響等に関する調査研究を行っています。震災時の母子保健の現状と課題を把握し、今後の支援を検討するための重要な調査研究ですので、管内の保健所及び市町村の母子保健担当者に周知をお願い致します。下記1と3の一部については、今後研究者から保健所や市町村に直接依頼がありますので、協力依頼があった場合にはご協力いただきますようお願い致します。

### 記

#### 1. 東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究（研究代表者：東北大学教授 呉繁夫）

被災地の子どもの心身の状況や震災時の小児医療機関の課題を把握し、被災地の子どもの保健の向上を図ることを目的とした調査研究です。ご協力いただける市町村には、乳幼児健康診査の既存データを匿名で提供頂き、分析結果をお返しする予定です。研究の詳細は、別紙1を参照下さい。

#### 2. 震災時の妊婦・褥婦の医療・保健的課題に関する研究（研究代表者：東北大学名誉教授 岡村州博）

被災した妊産婦や周産期医療機関のアンケート調査等を行い、災害時の母子保健・周産期医療の課題を取りまとめることを目的とした調査研究です。研究の詳細は、別紙2を参照下さい。

#### 3. 東日本大震災時の地域母子保健活動の課題に関する調査研究（研究代表者：東北大学教授 平野かよ子）

被災地の保健師や助産師等の母子保健活動を記録し、今後の大規模災害発生時の保健活動の改善に活かすことを目的とした調査研究です。研究の詳細は、別紙3を参照下さい。

児 号 外

平成 24 年 7 月 24 日

各市町村母子保健主管課長 様

岩手県保健福祉部児童家庭課少子化担当課長

## 東日本大震災被災地における母子保健に関する調査研究について

このことについて、平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業において、被災体験、家族・友人や生活基盤の喪失などが東日本大震災被災地の母子の心身の健康や保健システムに与える影響等に関する調査研究を行うこととされています。

つきましては、下記の研究について、研究者から協力依頼があった場合には、可能な範囲で調査にご協力いただきますようお願いいたします。

### 記

#### ○研究名

1. 東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究
  - ①子どもの発育状況に関する研究
  - ②震災時の小児保健医療に関する研究
  - ③子どものこころの調査・解析
2. 震災時の妊婦・褥婦の医療・保健的課題に関する研究
  - ①岩手・宮城・福島県の産科医療機関の震災時の状況等に関する調査
  - ②震災時の妊婦の行動や現在の課題に関する調査
  - ③被災地の母子保健指標の調査
3. 東日本大震災時の地域母子保健活動の課題に関する調査研究

担当：少子化担当 木村春菜 電話：019-629-5470

厚生労働省科学研究費補助金・成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業  
(H24-次世代-指定-007(復興))  
研究代表者・東北大学小児科教授・呉繁夫

## 東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究

- ①子どもの発育状況に関する研究
- ②震災時の小児保健医療に関する研究
- ③子どものこころの調査・解析

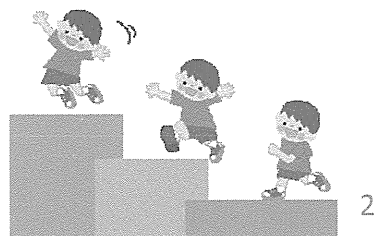
(研究組織)

- 東北大学/呉繁夫・栗山進一・菊谷昌浩・石黒真美
- 岩手医科大学/千田勝一・八木淳子 ●福島県立医科大学/細矢光亮・増子博文
- 山梨大学/山縣然太郎 ●日本保育園保健協議会/遠藤郁夫
- 国立成育医療研究センター病院/奥山真紀子
- 宮城県子ども総合センター/本間博彰 ●拓桃医療療育センター/田中総一郎

1

## 背景

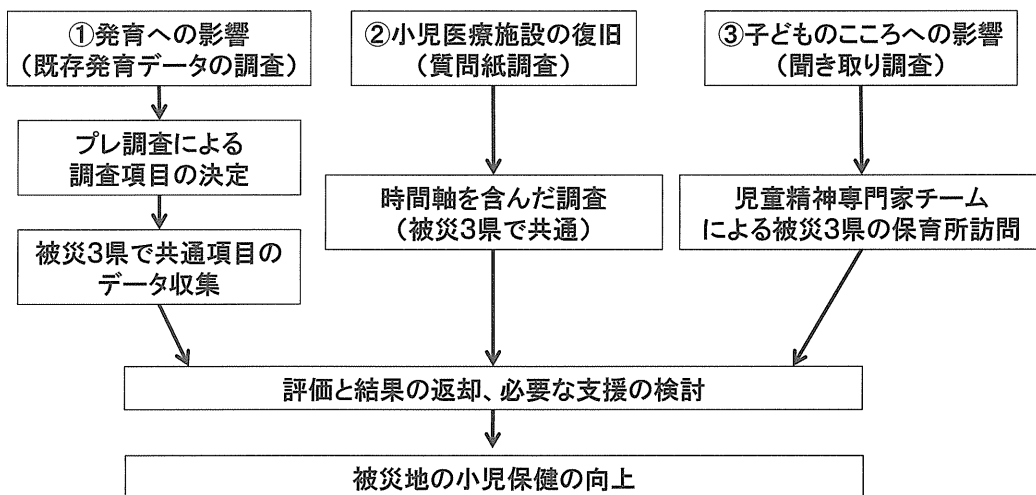
- 平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、その規模、死者・行方不明者の数、などあらゆる観点からみても、近代日本が経験したことがない激甚災害
- 災害時の小児保健医療の課題を把握するために、被災地における子ども達の健康状態を体と心の両面から、経時的、多面的、かつ統一的視点で把握する必要
- 被災地の子供たちの心身を支える小児保健医療の課題を把握するために、被災地の小児科医療機関の調査を行い、災害時の課題や復旧状況を把握する必要



## 概要

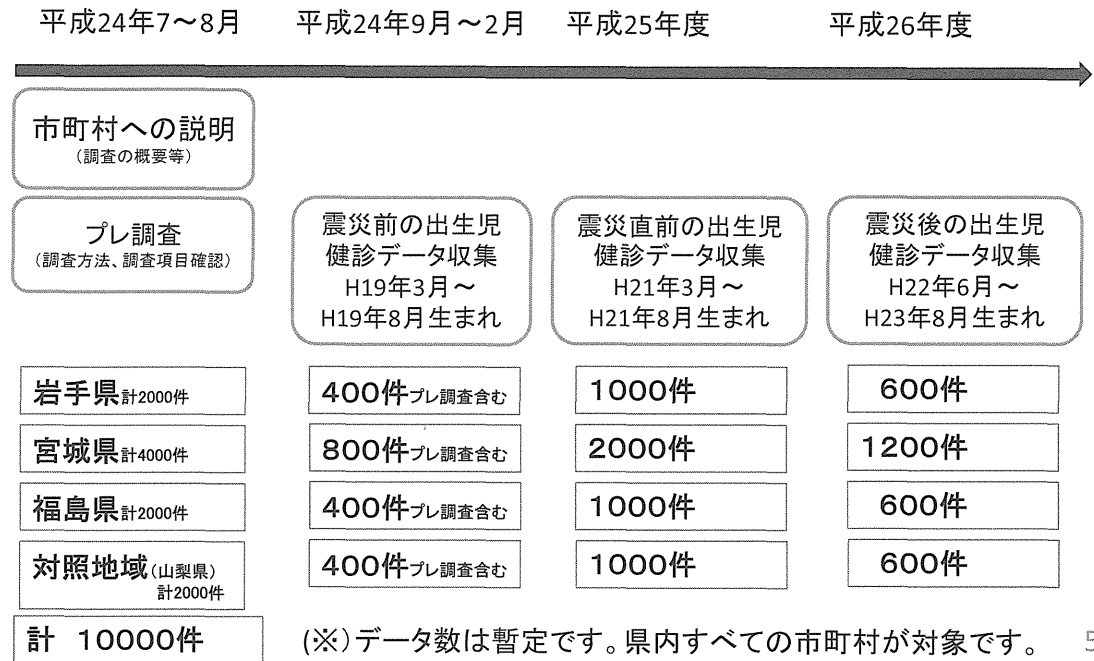
- ① 被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究(平成24-26年度):
- ✓ 東北大学小児科(宮城県)、岩手医科大学小児科(岩手県)、福島県立医科大学小児科(福島県)が一致協力
  - ✓ 岩手県、宮城県、福島県、対照地域のこどもの発育・成長を、協力頂ける市町村の乳幼児健康診査、保育所や学校健診の身体測定などの既存データを基に横断的・縦断的に把握・分析
  - ✓ 被災地の子どもの発育状況の評価や必要な小児保健的介入等について検討
- ② 震災時の小児科診療に関する調査研究(平成24年度):
- ✓ 時間軸が加わった小児医療機関へのアンケート調査
  - ✓ 震災の小児科診療(乳幼児健診、予防接種、救急対応(救急搬送を含む)、慢性疾患管理、入院診療、研修医の教育・指導、学校医(学校健康診断)、こころの問題への対応)への影響を把握し、災害時の小児保健医療の課題を分析
- ③ 被災地の子どもの心の状況に関する調査研究(平成24-26年度):
- ✓ 児童精神医学の専門家チームが津波被災地域・地震地域・対照地域の保育所の園児(卒園児を含む)、その家族のストレス状況や反応について、面接調査により把握し、必要な児及び家族には支援を行う
  - ✓ 面接調査を継続することで、被災地の子どもの心の状況の変化を把握する 3

## 東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究:流れ図



①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究  
～乳幼児健診の既存データの収集～

【スケジュールと対象】



①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究  
～乳幼児健診データ～

【調査項目(案)】(\*は必須)

- いずれかの時期
  - \*個人ID
  - \*H23.3.11前後の住所  
(被災の有無を推定。  
番地はなし)
  - \*被災に関するメモ書き
  - \*先天性股関節脱臼
  - \*視力
  - \*歯科
- 出生時
  - \*誕生日
  - \*在胎週数
  - \*性
  - \*出生時体重
  - \*出生時身長
  - \*単胎、多胎
  - 帝王切開  
生後一週間までの異常の有無
  - \*母乳栄養
  - \*母親の年齢  
妊娠前体重、妊娠中体重増加
  - \*妊娠中の喫煙  
妊娠中の飲酒  
母親の就労  
家族構成
  - \*家族の喫煙者
- 乳児期健診(1～2回)
  - \*健診日  
月齢
  - \*体重
  - \*身長
  - \*母乳栄養  
離乳食開始、完了
- 1歳6か月児健診
  - \*健診日  
月齢
  - \*体重
  - \*身長
  - \*母乳栄養  
離乳食開始時期、
- 3歳(6か月)児健診
  - \*健診日  
月齢
  - \*体重
  - \*身長

※個人ID、住所、誕生日は、解析用データベース作成後  
速やかに削除

# ①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究 ～乳幼児健診データの収集方法～

## 【検討中の案】

### ●情報が電子化されている場合：

- 1) 必要項目を取り出し、DVD等を大学に提供いただく  
⇒必要経費があれば、お支払致します

### ●情報が紙媒体で保管されている場合：

- 2) 自治体で個人情報を削除してコピー後、大学に送付  
⇒紙代、トナー代、郵送代等をお支払致します
- 3) 自治体で必要事項を転記後、大学に送付  
⇒紙代、筆記具代、郵送代等をお支払致します
- 4) 自治体で必要事項を電子入力後、大学に送付  
⇒メディア、郵送代等をお支払致します
- 5) 大学から保健センター等に人を派遣し、個人情報を削除してコピー  
⇒紙代、トナー代等をお支払致します
- 6) 大学から保健センター等に人を派遣し、必要事項を転記  
⇒特に金銭のお支払予定はありません
- 7) 大学から保健センター等に人を派遣し、必要事項を電子入力  
⇒特に金銭のお支払予定はありません

1)～7)から選択

7

# ①被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究

## 【倫理審査】

平成24年6月25日  
東北大学にて承認

(受付番号：2012-1-125)

様式第5号

倫理委員会  
審査結果通知書

平成24年6月25日

実施責任者： 野 繁 博

東北大学大学院医学系研究科長  
大 内 進 明

研究課題名： 被災地の子どもの発育状況等に関する調査

研究期間： 西暦2012年6月～西暦2015年3月

申請のあった上記研究計画について、審査の結果下記のとおり判定しました。

記

判定

1. 承認する。
2. 条件付きで承認する。
3. 保留。
4. 承認しない。
5. 該当しない。

条件又は変更勧告の内容及び理由

〔注意〕  
「承認する」「条件付きで承認する」「保留」とのいずれの判断についても、当該研究に関する倫理申請手続が完了して承認してください。また、「承認しない」「該当しない」の場合には、当該研究が中止されます。

東北大学大学院医学系研究科倫理委員会審査済  
委員長 野 繁 博

8

## 被災地小児データ収集の意義

- ご協力いただいた自治体には、当該自治体と協力全自治体との比較をした報告書をお返しします。ご協力いただいた自治体は、これを基礎資料として地域の子どもの課題の把握や支援を検討することができます(学校保健統計調査と同様の効果が期待されます)。
- 被災地の子どもの心身の状況を把握し、必要な医療や診療体制等を検討すること等により、被災地の子どもの保健の向上を実現することができます。
- 災害時の小児医療機関の課題を取りまとめることで、災害時の小児保健対策のより効果的な立案が可能となります。
- 岩手県、宮城県、福島県の小児保健医療関係者が共通の課題認識を持って、子どもの支援に携わることが可能となります。

9

(発育調査に関するお問い合わせ先)  
岩手医科大学 小児科  
東北大学 小児科  
福島県立医科大学 小児科

10

## 震災時の妊婦・褥婦の医療・保健的課題に関する研究

## 【背景】

被災地の医療の復興は長期にわたるものと考えられるが、このような状況下におかれた母子保健医療を守るための基本となるデータが存在しない。被災した妊婦はどのように行動し、医療サービスを受けることができたのか。災害時の周産期医療及び母子保健の課題を取りまとめ、必要なシステムを提案することが必要である。

## 【目的】

被災地の妊産褥婦の震災時の行動や現在の課題、被災地の産科医療機関の震災時の状況等を調査し、災害時の周産期医療・母子保健の課題を明らかとするとともに、今後の母子保健・周産期医療のあり方について提言することを目的とする。

## 【方法】

- ① 岩手・宮城・福島県の産科医療機関の震災時の状況等に関する調査（平成 24～25 年度）  
産科医療機関へのアンケート調査により、震災時の課題を取りまとめる。
- ② 震災時の妊婦の行動や現在の課題に関する調査（平成 24～25 年度）  
①の産科医療機関のうち、協力頂ける医療機関に震災時に通院していた妊産婦で調査協力に同意頂ける方を対象に、各県の状況に応じ、アンケート方式の調査や個別訪問により、震災時の行動や被災当時から現在の課題（健康、産後うつ、育児面での課題を含む）の把握を行う。災害時の初期対応の問題点、被災者の今後の不安を解消するために必要な母子保健施策を検討する。
- ③ 被災地の母子保健指標の調査（平成 24～25 年度）  
被災地における震災後の女性の妊娠行動を反映する不妊治療、出産数等の母子保健指標の動向を調査する。

## 【研究組織】

研究代表者：岡村 州博（東北大学名誉教授）

分担研究者：小笠原 敏浩（岩手県立大船渡病院副院長）、  
藤森 敬也（福島県立医科大学教授）、伊藤 潔（東北大学教授）、  
菅原 準一（東北大学教授）佐藤 喜根子（東北大学教授）、  
星 和彦（東北大学非常勤講師、スズキ記念病院院長）

## 【倫理的事項】

本研究の実施にあたっては、対象者の負担の軽減および結果の効率的な活用の観点から、必要に応じ、他の研究とデータや結果を共有し、連携して実施する。東北大学倫理審査会の承認済み

## 【問い合わせ先】

東北大学大学院医学系研究科 TEL:022-717-7251



## 東日本大震災時の地域母子保健活動の課題に関する調査研究

## 【背景】

未曾有の激甚災害で、地域母子保健を担う保健師がどのように活動をし、どのような予測できなかった困難を経験し、解決していったのか等をまとめ記録に残すことは、専門職としての務めである。本研究で被災地3県の母子保健活動を包括的に記録し分析することは、今後の地域母子保健システムの強化につながり、非常に重要である。

## 【目的】

保健師の役割の中でも母子保健に特化し、災害時の母子保健活動の記録をし、課題を明らかにする。また、災害時に求められる母子保健活動や保健師等の役割について論議集約し、災害時の母子保健対策の手引きを作成することを目的とする。

## 【方法】

岩手県、宮城県、福島県の被災3県の保健師、被災地支援を実施した保健師等を対象に、グループインタビュー及びアンケート調査を実施する。調査により得られた記録をまとめ、災害時の母子保健活動における課題の分析を行う。

※研究での取りまとめ結果は協力いただいた自治体へ報告予定

## 【研究組織】

研究代表者 平野 かよ子（東北大学）

研究分担者 上林 美保子（岩手県立大学）、岸 恵美子（帝京大学）

福島 富士子（国立保健医療科学院）、中板 育美（日本看護協会）

横山 美江（大阪市立大学）

研究協力者 黒田 裕子（福島県立総合衛生学院）、佐藤 睦子（多摩府中保健所）

佐藤 真理・阿部 亜希子（東北大学）

## 【倫理的事項】

本研究の実施にあたっては、対象者の負担の軽減および結果の効率的な活用の観点から、必要に応じ、他の研究とデータや結果を共有し、連携して実施する。東北大学倫理審査会の承認済み

## 【問い合わせ先】

東北大学大学院医学系研究科 FAX:022-717-7925（平野）

## 別紙 4

## 「子どもの発育状況に関する研究」概要

【実施概要】岩手医科大学小児科の担当者が岩手県内の協力可能な市町村を訪問し、3歳児健診を終えた既存の乳幼児健康診査票のデータを原則として転記、コピーまたはデータ入力します。

【対象】次の子どもを対象にして、今後3年間調査します。

平成24年度は平成19年3月から8月生まれの子ども、平成25年度は平成21年3月から8月生まれの子ども、平成26年度は平成22年6月から平成23年8月生まれの子どもについて、3歳児健診が終了した時点でスライド6にある項目を調査します。

対象	調査年度	出生時期
震災前の出生児	平成24年	平成19年3月～8月
震災直前の出生児	平成25年	平成21年3月～8月
震災後の出生児	平成26年	平成22年6月～ 平成23年8月

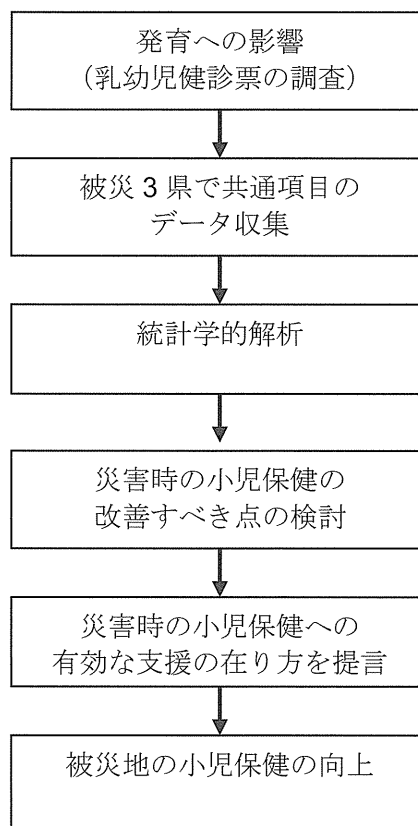
【調査項目】3歳児健診の記録から、出生時、乳児期（1回ないし2回）、1歳6か月時、および3歳時の身長、体重および発育に影響を与える要因とします（次表）。岩手県の調査は岩手医科大学小児科が担当します。

## 調査項目

1. いずれかの時期	
* 個人 ID	
* 平成23年3月11日前後の住所（被災地の有無を推定。番地はなし）	
* 被災に関するメモ書き	
* 先天性股関節脱臼	
* 視力	
* 歯科	
2. 出生時	
* 出生日	* 母乳栄養
* 在胎週数	* 母親の年齢
* 性	妊娠前体重、妊娠中体重増加
* 出生時体重	* 妊娠中の喫煙
* 出生時身長	妊娠中の飲酒
* 単胎、多胎	母親の就労
帝王切開	家族構成
生後1週間までの異常の有無	* 家族の喫煙者

<p>3. 乳児期健診（1～2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 健診日</li> <li>  月齡</li> <li>* 体重</li> <li>* 身長</li> <li>* 母乳栄養</li> <li>  離乳食開始、完了</li> </ul>	<p>4. 1歳6か月児健診</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 健診日</li> <li>  月齡</li> <li>* 体重</li> <li>* 身長</li> <li>* 母乳栄養</li> <li>  離乳食開始時期</li> </ul>
<p>5. 3歳児健診</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 健診日</li> <li>  月齡</li> <li>* 体重</li> <li>* 身長</li> </ul>	

## 【期待される効果の流れ図】



返信用紙

FAX : 019-651-0515  
平成 24 年 8 月 20 日まで

宛先 : 〒020-8505 岩手県盛岡市内丸 19-1 岩手医科大学小児科学講座  
千田 勝一  
TEL : 019-651-5111 内線 3726

市町村名 \_\_\_\_\_

担当課名 \_\_\_\_\_

記載者名 \_\_\_\_\_

東日本大震災被災地の子どもの発育状況に関する調査

協力できます

協力できません

(どちらかに○をお付けください)

ご協力いただける場合、次の 1、2 の項目に○印をお願いします。調査日については、追ってご連絡を差し上げます。

1. データの収集方法

データ収集は岩手医科大学小児科学講座の担当者がお伺いし、転記、コピーまたはデータ入力することを原則としますが、別紙 1 のスライド番号 7、収集方法についての番号に○印をお願いします。

- ・情報が電子化されている場合： 1)、その他 \_\_\_\_\_
- ・情報が紙媒体で保管されている場合： 2), 3), 4), 5), 6), 7)

2. 乳児健診を行っている月齢すべてに○印をお願いします。

1 か月、3 か月、6 か月、9 か月、12 か月

☆ご連絡事項がございましたらお書きください。